

第1回（仮称）もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 議事概要

日 時

令和4年（2022年）3月28日（月） 13時30分～16時00分

場 所

もみじ台管理センター 2階大会議室（札幌市厚別区もみじ台北7丁目1-1）

出席者

<検討委員会委員>（順不同・敬称略）

北星学園大学 経済学部 教授	鈴木 克典	委員長
札幌学院大学 人文学部 准教授	新田 雅子	委員
(株)北海道二十一世紀総合研究所 取締役副社長	小高 咲	委員
(株)Localize 代表取締役	庄田 健助	委員
(株)ホクノー 代表取締役社長	野地 秀一	委員
SOC(株) 代表取締役社長	朝倉 由紀子	委員
もみじ台自治連合会 会長	東 健二郎	委員
もみじ台まちづくり会議 副議長	高澤 英治	委員
あつべつ区民協議会 委員	二峰 章	委員
もみじ台市営住宅自治会連絡協議会 会長	須貝 淑郎	委員

<事務局>

札幌市 まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課	調整担当課長	阿部 賢
〃	調整担当係長	大宮 弘之
〃	調整担当係	山本 郁也

配布資料

- 会議次第
- 資料1 (仮称)もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 委員名簿
- 資料2 第1回(仮称)もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 座席表
- 資料3 (仮称)もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 設置要綱
- 資料4 もみじ台地域のまちづくり (スライド資料)

議事概要

1 開会

開会あいさつ

2 委員紹介

委員及び事務局職員を紹介

3 委員長及び職務代理者の選出

委員長は鈴木委員、職務代理者は新田委員に決定

4 事務局説明

事務局より、資料4に基づき、もみじ台地域の概要、現状及び今後の取組について説明。

<委員からの質問>

(高澤委員) もみじ台南中学校の今後の予定はどのような考えか。

(事務局) もみじ台南中学校は、令和4年度に校舎を解体する予定であり、その跡地の活用については、まちづくり指針の検討と併せて行う予定。

(小高委員) まちづくり指針を策定した後は、どのようにまちづくりを推進する考えか。

(事務局) まちづくりの方向性を定めたまちづくり指針を土台として、例えばエリアごとの土地利用再編やまちづくりの進め方など、より具体的な検討を進めていく予定。

5 意見交換

<東委員>

- もみじ台地域には大規模な市営住宅が存在するが、これらの市営住宅はただ建て替えるだけでは、地域の発展は望めない。建て替えと同時にまちの活性化を図らなければならない。
- 中学校統合の際に市へ要望したとおり、9年制の義務教育学校を設置して、子どもたちにとってより良い教育環境を整備することで、地域の活性化にもつながると思う。
- 戸建て住宅の住民と市営住宅の住民で意見が異なることも考えられる。
- テクノパークと連携して、IT技術で地域の魅力を創出できないだろうか。例えば、団地内で使えるWi-Fiを導入するなど。
- 事務局説明にあったように、もみじ台地域の戸建て住宅は結構住み替えが行われているので、例えば、テクノパークの従業員向けに不動産情報を広報して、もみじ台地域内に住めないか検討してもらうのはどうか。

<高澤委員>

- 自治会や老人クラブなど様々な地域の団体で後継者が不足しており、高齢化を強く実感している。やはり、若い世代が住みやすいまちを作っていかなければならないと考えている。

- 今後のまちづくりでは、隣接するテクノパークとの連携を検討するのが良いと思う。例えば、学校の跡地をテクノパークの企業に活用してもらうなど、検討してほしい。

<二峰委員>

- 将来の札幌市ともみじ台地域がどうなるか推測して検討を進める必要があると思う。
- 若い世代が増えているまちの特徴として、便利な交通網が整備されていること、地域の核となる施設があること、良好な住環境であることが挙げられる。もみじ台地域は、緑が豊かで暮らしやすい良好な住環境だと考えているので、この強みを活かしていくのが良いと思う。
- まち並みの整備に関する視点として、快適な歩行空間、居心地の良さ、豊かな緑についてよく検討されているが、札幌では雪の問題も考慮する必要がある。
- 道路を拡幅して、歩道、自転車道、車道を分離させることで、交通の便が良くなり、除雪もしやすくなるので検討した方が良いと思う。
- もみじ台地域内には公園が多数あるので、これらの公園を若い世代が利用しやすく、駐車場で移動販売などもできるように整備するのはどうか。
- ショッピングモールや病院、幼稚園、郵便局など様々な機能が集まる地域の核となる施設が活性化には必要だと思う。
- 市営住宅を建て替える際は、1階にコンビニや集会所など利便機能を設けるのはどうか。市営住宅の住民だけでなく、戸建て住宅の住民も利用できる施設となれば、地域交流にもつながると思う。

<須貝委員>

- 市営住宅などの公共施設を更新するだけでは不十分で、戸建て住宅も含むもみじ台地域全体をどのように変えていくか議論しなければならないと考えている。
- 市営住宅を建て替えたり、高層化したりしても、高齢者が多いままだと団地の活性化にはつながらない。
- 若い世代に住んでもらうためには、子どもたちが安心して遊べる環境が必要だと思う。しかし、閑静な住環境を良く思っている方も多いので、これまでの住環境に配慮しながら、子どもたちが安心して遊べる環境を整備する必要がある。

<朝倉委員>

- テクノパークの企業も移転や閉鎖により減少しており、問題意識を持っている。
- 例えば、もみじ台地域の学校跡施設や市営住宅の空き住戸でコワーキングスペースを設けるなど、もみじ台地域と連携した取り組みを展開することで、テクノパークも盛り上げることができれば良いと思うので、積極的に検討していきたい。
- 自分の母校も児童数が少なく残念ながら数年前に閉校になってしまった。自分の通う学校がなくなってしまうのはとても寂しいことなので、小中一貫校設置の検討については、地域の方々の気持ちに寄り添い、配慮しながら進めてもらいたい。

<野地委員>

- 少子高齢化がもみじ台地域の最も大きな問題だと感じているので、今後のまちづくりは、高齢者向けというよりは若い世代、特に子育て世代向けの取組を展開して人口増加を目指す必要があると思う。例えば、千葉県流山市で行われているように、便利な託児サービスを提供するなど、他都市の事例を参考にするのが有効だと思う。
- 現在、新さっぽろで再開発が進められ盛り上がりを見せている。もみじ台地域もこの盛り上がりに合わせてまちづくりを進められたら良いと思う。
- 自動運転技術など最新のICT技術をまちづくりに活用できると良いと思う。

<小高委員>

- 子育て世代がもみじ台に住みたいと思われるようにまちづくりを行うのが重要だと考えている。
- もみじ台地域は高齢化率が高いが、元気な高齢者もたくさんいるので、若い世代と高齢者が交流しながら暮らしていける地域を目指していけるのではないかなと思う。
- 広大な市営住宅をどのように再編していくのかという点も重要。もし、市営住宅を高層化して余剰地が生まれるのであれば、例えば、必ずしも都心に設ける必要がない公共施設を設置するなど、様々な可能性が考えられる。
- 郊外住宅地から中心部に通勤、通学するという従来の暮らし方は変わってきている。もみじ台地域は、住みながら働ける地域にすることも良いのではないかなと思う。

<庄田委員>

- もみじ台まちづくり会議が作成している地域まちづくりビジョンに象徴されるように、地域住民が若い世代のためのまちづくりをしたいと考えていることは大変素晴らしいこと。
- もみじ台地域に住むには、戸建て住宅か市営住宅のどちらかで暮らすしかない状況になっていると感じており、アパートやシェアハウスなどもっと多様な暮らし方ができるようになれば、選択肢が増え、流入する人も増えるのではないかなと思う。
- 駅など交通拠点に近接しておらず、人口が減少しているもみじ台地域でにぎわいを生み出すには、魅力的な拠点を作ることが必要だと思う。
- 例えば、子育て世代は公園をよく利用するので、月寒公園のような子育て世代にとって魅力的な公園を整備するというのもアイデアの一つとして考えられる。熊の沢公園からもみじ台北公園までを繋げて大きな公園にして、中央のホクノーや管理センターも公園の中の商業施設として改修すれば魅力的な拠点ができる。
- もし、市営住宅を再編して余剰地が生まれるならば、余剰地を民間企業にただ売却するのではなく、地域と企業が連携してエリアマネジメントの取組を展開できれば良いと思う。例えば、URのプロジェクトではあるが、福岡県の日の里団地は遊休地の売却時にデベロッパーが出資したまちづくり会社を設立し、集合住宅建設以降のまちづくり活動を実施しており、クラフトビールの醸造所やコワーキングスペースなどを運営して魅力づくりをしており、参考になる。

<新田委員>

- 札幌学院大学がある大麻地区には、道営住宅とURの団地があり、もみじ台地域と同じような課題を抱えているが、最近では公務員住宅など公共施設の跡地を住宅メーカーに売却し、さらに、市が新築住宅の建設費用を補助しており、新築住宅がたくさん建って子どもの数が増加していると聞いている。大麻地区の取組は、今後のもみじ台地域のまちづくりの参考になるかもしれない。
- もみじ台団地に北星学園大学の学生が入居している取組について学生と共に研究し始めたところなので、これらの取組からもみじ台地域のまちづくりにとって有意義な意見を出せば良いと思っている。

<鈴木委員長>

- もみじ台地域には、緑豊かで良好な住環境ともみ人ふれあい祭りや地域の大広間など地域住民が築いてきたたくさんの素晴らしい取組がある。これからのまちづくりは、これらの良さを残しながらバランスよく新しいにぎわいや魅力を創出できるように検討していければ良いと思う。
- 小中一貫校の設置が実現すれば地域の大きな魅力になると思うが、子育て世代の増加を目指すという点においては、小中一貫校だけでなく、高校や幼稚園・保育園も含めて子育て世代にとって魅力的な地域となるよう検討することも重要である。
- 小中一貫校では、例えば、もみじ台地域には様々な経験や知識を持っている方がいるので、そうした地域住民から子どもたちに教える機会を設けたり、テクノパークの企業へのインターンシップなどテクノパークと連携した教育を行うなど特徴的な教育を行うと魅力が出るのではないかと。
- 今後の土地利用の再編においては、もみじ台地域内に必要な機能と近隣の地域で担える機能を整理するという発想も重要であり、近隣の地域への交通アクセスも踏まえながら整理することができれば良いと思う。例えば、新さっぽろに大きな病院があるので、もみじ台地域には小さな病院が適当であるなど、すべてがもみじ台地域に揃っている必要はないように思う。
- 通勤・通学、買い物などでより利用しやすい便利な交通・移動手段があれば地域の魅力となる。
- 若い世代の流入を促す取り組みとして、コワーキングスペースなどを設置し、起業のスタートアップ支援を行うということも有効だと思う。テクノパークの企業との協力も可能かもしれない。
- 国内外を問わず様々な地域でエリアマネジメントに取り組んでいる事例があるので、これらを参考にして、もみじ台地域でもエリアマネジメントに取り組めないか検討できれば良いと思う。

6 事務連絡

- 本日の議事概要を本市ホームページにて後日公開する予定。また、もみじ台地域の住民向けのニュースレターも作成・配布する予定。
- 次回の検討委員会は、令和4年7月以降に開催する予定。今回の検討委員会の内容を踏まえて、もみじ台地域の将来像やまちづくりの基本方針、目標について提示したい。